



森のなかま

2020年 10月号

NO. 148 (継続293号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

9月からインストラクター派遣を再開しました。 (事務局長)

県の基本方針に基づき、8月末まで活動を休止していましたが、9月から再開いたしました。再開にあたり、理事長からのあいさつ文を掲載します。

活動再開に当たって

理事長 久保 重明

お待たせいたしました。やっと9月から活動再開になりました。皆様この新型コロナウイルス感染予防の期間をどう過ごされたでしょうか。一寸長い期間でしたので、早く活動に入りたいというずうずされておられる方、活動に入るに多少不安を感じている人と様々だと思います。

特に春から活動に参加する予定だった16期生の方々にはまだ一度も現場に出ることがなく、不安に感じられて方も多くおいでかと思えます。誰でも初めはあり、研修期間に覚えたことを落ち着いて思い出せば出来るはず。また周りには多くの先輩がおりますので、分からぬことは気軽に声を掛けられればよいと思います。

再開するに当たって、会は多くのインストラクターと多数のお客さんが参加する活動を想定し、新型コロナウイルス感染予防のガイドラインを作りました。主なものについてはHPにも掲載されており、また各活動での参加するインストラクターについてはこれらガイドラインを配布することになっております。参加される方はよくお読みになり、それらを守ることを念頭に参加されますようお願い致します。

また新型コロナウイルス感染予防のために、各インストラクターには初回のみですが、無償でフェイスシールドを配布することになっております。更にフェイスシールドを付けるとインストラクターの声が通り難くなることからハンズフリーも準備しております。この他、インストラクターが感染しないようにあらゆることを考え準備しました。

もし当日でも参加に当たって不安を感じる方がおられれば、その旨遠慮なく申し出て頂ければ、参加を取止めることも出来ます。皆様とフィールドでお会いできるのを楽しみにしております。

活動再開にあったってのコロナ対策の状況

(記 写真 広報部 黒川敏史⑭)

9 月からの活動再開にあたり、新型コロナウイルス拡大防止策として、森林インストラクターの会活動再開ガイドラインを下記に示すように定め、インストラクターはこれに基づき活動を行っています。

9/26 に実施された、県民参加の森づくり「間伐」での受付までの対応の様子をお知らせします。なお、バスで現地まで行きましたが、雨のため間伐作業は中止となりました。(活動短信を参照ください)

7:50 小田原駅集合 インストラクターの体温体調確認後、財団の大木さんから、コロナ対策についての説明、リーダーの上田さんからの受付持ち場の説明を受け、持ち場に分かれた。



検温

参加者受付にて

- ・参加者検温
- ・名簿確認
- ・体調他渡航歴や、濃厚接触者に感染者がいないか等の確認

バスでの移動中

- ・バス乗車は、定員の半分、2 人掛けの椅子には一人で座る。
- ・バス内では大声を出さないように必要最低限の説明とする。

インストラクターにはフェイスシールドが配布され、作業中は、これを付けることになります。左の写真は、フェイスシールド着用の様子。



フェイスシールド

かながわ森林インストラクターの会活動再開ガイドライン

*** 森林インストラクターとしての自分自身の行動と心構えが参加者の行動に大きく影響するということを認識して活動に臨みます。**

- 1) 自分自身の体調は自分で管理して、体温などは常に把握する。
- 2) いつもと違うなど違和感がある時は活動に参加しない。
- 3) 常に三密（密集・密接・密閉）を避ける。
- 4) 他人との間隔を確保して、マスクを着用し必要ならフェイスシールドの使用を考える。
- 5) 手洗いと手指の消毒に努める。
- 6) 活動中も参加者の動きをよく観察して必要なら声掛けをする。
- 7) 具合の悪い参加者が発生したときは、活動を中断する。
- 8) プログラムの変更中止をためらわない。
- 9) 最後まで参加者の動きなどよく観察する。
- 10) インストラクター会の主催活動では参加者・連絡先名簿を作成する。

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

前回に述べましたようにフラボノイドの基本骨格はベンゼン環二つを 3 個の炭素でつないだ形をしています。ベンゼン環に付く置換基や結合の仕方によっていくつかのグループに分けられます。その一つがアントシアニンというグループです。

アントシアニンは花や葉や果実などの植物の青や赤、紫などの華やかな色を作りだすものになっています。アントシアニンは古くは花青素とも呼ばれていました。その呼び名はヤグルマギクの青色の色素につけたのが始まりで、ギリシャ語の花を意味する anthos と青い色の cyanos との造語です。



フラボノイドは置換基にグルコース、ガラクトース、ラムノースなどの糖をつけた配糖体が多く存在しますが、アントシアニンの場合、配糖体のものをアントシアニン、糖がはずれた形のものをアントシアニンジゲンと言います。

アントシアニンには水やアルコールに溶けやすい性質があります。また、溶けている液体の性質によって構造が変わると同時に色にも変化が起き、酸性の溶液中では赤色になり、アルカリ性では青色に変化します。植物体の中ではアントシアニンは植物が土中から吸い上げたアルミニウム、カルシウム、マグネシウムなどの金属とも結合するので必ずしも酸性かアルカリ性だけで色が決まるわけでもなく複雑です。

例えば、梅雨空に青、赤紫、ピンク、紫の色の花を咲かせ七変化の異名を持つアジサイのアントシアニンはアルミニウムと結合して青色になります。実はアジサイの花びらのように見えるのは、花びらを支える「がく」という部分なのです。つぼみのうちには緑で、花が開くにつれて緑以外の色がついてくることでもがくが花の形に変化したものであることがわかります。薄いピンクで春先に安らぎをもたらすサクラの花の色もアントシアニンによるものですが、

第 3 5 回 草木の華やかな色を作りだすアントシアニン

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

このサクラの中に緑の花を咲かせる御衣黄(ぎょいこう)というサクラがあります。花びらの中にクロロフィルを持っているサクラなのです。この例を見ても花が葉の変化したものであることがわかります。

ところで、アルミニウムは酸性でよく溶けますので酸性土壌ではアジサイがアルミニウムをよく吸収し青色になります。土がアルカリ性ですと根から吸収するアルミニウムの量が少ないのでアジサイは赤に近い色になります。アジサイの花の色は土壌の性質によって変わってくるのです。好みの色を出させるように調整した肥料も売られています。

花の色は花びらの細胞に色素が蓄積されて発色します。アントシアニンのような色素の成分だけでなく細胞の pH や金属イオンによっても色が変わってくるのです。花の色素はアントシアニンだけではなく、黄色の花の色はカロテノイドやフラボノイドの一種のカルコンという化合物によります。アントシアニンによる赤色の花とカロテノイドの黄色の花を交雑で橙色の花を作りだすことも行なわれています。

アントシアニンやカロテノイドは秋の野山を彩る紅葉のもとになっています。紅葉の仕組みについては次回以降に取り上げることにいたします。

リンドウ、ロベリア、キキョウ、サイネリア、ツユクサの青色はアントシアニンによるものです。ヤグルマギクやヒマラヤの青いケシでは糖がはずれた形のアントシアニンジゲンに金属が結合して青色になることが分かっています。

赤色を発色するアントシアニンは赤キャベツ、サトウダイコン、赤シソ、赤カブ、ハツカダイコンなどに見られます。



(イラスト)

ヤグルマギク 広報部 加藤 優美 ⑮

赤シソ 平成 29 年 10 月号から

元広報部 大塚(現長尾) 晴子⑪

活動短信

今回の掲載は R2 年 9 月 9 日-9 月 26 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

10 月(神無月)(旧暦 9 月長月)の二十四節気

寒露 10/8 頃

秋本番、冷たい露が付く
ころ。農作物の収穫たけ
なわ

霜降 10/24 頃

早くも霜が降りる頃、紅葉の
便りも届くころですが、温暖
化で少しずれているかも。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ
避けてください。改行等の処理に手間を要しますので
写真もあれば 1 枚添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例: 相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

イ インストラクター (○数字: 期) 研: 研修枠

以下の本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェック
をお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 横浜市立西富岡小学校 間伐体験
事前授業

日 令和 2 年 9 月 9 日(水) 11:30~12:15 晴れ

場 横浜市立西富岡小学校

参 106 名(5 年生児童 103 名 教諭 3 名)

財 内田氏

イ L 柏倉④

社会科単元での学習「森林を守り育てる人々」をう
けて実施する「林業体験・間伐作業」を行う前段階の
事前学習として実施する。

新型コロナウイルス感染拡大防止策として、全員マスクを着
用し、体育館にて「三密」を避けるため児童の前後と
列の間隔をそれぞれ 1m 確保する。また窓を全開した
状態で行う。内容は学校の要望を受け以下の観点の
もと、パワーポイント(26 枚の写真・図表)で行った。

- ① 森林の分布
- ② 広葉樹林と針葉樹林
- ③ 森林の働き
- ④ 育林暦と林業従事者数の推移
- ⑤ 森林の仕事
- ⑥ 県民協働の森林づくり活動の紹介

人工林の説明ではスギとヒノキの葉を全児童に用意
してその特徴や違いを理解できるようにした。
まために、間伐作業では「協力し合って安全に楽しく
取り組みましょう」と約束する。

今回、「コロナ禍での林業体験の実践」に当たり、感
染防止を徹底すべく(文書の起案、作成、周知)(備
品・消耗品の検討・購入・整備)等にご尽力の担当者
に感謝の意を表します。

(記 柏倉 紘 ④)

◆ 横浜市立西富岡小学校 間伐体験

日 令和 2 年 9 月 24 日(水) 9:30~12:00 雨

場 横浜市立西富岡小学校

参 101 名(5 年生児童 98 名 教諭 3 名)

財 豊丸課長、内田氏

イ L 柏倉④ 松本⑪ 井出① 山崎⑦ 齋藤⑧

野牛⑧ 小沢⑨ 小笠原⑩ 小松⑭ 牧石⑭

大森⑯ 小林⑯ 堀口⑯

森林学習の内容が台風 12 号の影響で間伐作業か
らコースター作りに変更された。

私自身インストラクターとしての最初の仕事になっ
た。事前講習は有ったが、小学生を相手に何を話し
て良いのか不安でした。正直なところコースター作り
で安心をしたところもある。他の班の様子を見る余裕
が無かったので担当分の報告です。

私が担当をしたのは 5 年 3 組 10 班で男子 4 名女子 4
名であった。最初に子供達に鋸を使ったことが有るか
ないかを聞いた。



男女に分かれて、交互に丸太切りをしたところ一人
で最後まで切りきることは大変だったので、途中で交
代するルールにしたところ、段々と要領も掴み順番に
何度も鋸をひき、最後には力を入れずにスムーズに
切れた。

作業中に「森林は私達人間にとってどんな役割を
果たしているのだろうか？」と子供達に質問をしたと
ころ、事前授業で学習をしていたので、緑のダムのこと
や二酸化炭素を吸収して酸素を出していること等答
えてくれた。



一通り子供達は丸太切りが終わったが、まだ時間があったので事前に用意していた話をした。

- ① 森の中でナラ枯れした樹木を探す
森林館の南側にある広葉樹が粉を噴いて枯れているのを発見した。
- ② 針葉樹と広葉樹の根張りの違い
一概には言えないけれど土砂崩れに強いのは針葉樹か広葉樹か

子供達が森林に興味を持ってくれたことが嬉しかった。

子供達もインストラクターもコロナ対策をしながらの対応なので内容を減らしても余裕を持って学習を進めたいと思った。

(記 大森 善雄⑩ 写真 柏倉 紘④)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 第9回県民参加の森林づくり (間伐)

日 令和 2 年 9 月 26 日 (土) くもり・雨

場 真鶴町 岩

参 35 名

財 大木様 古館様 斉藤様

看 青木看護師

スタッフ 小田原市森林組合 高橋様

イ L 上田⑩ 湯浅⑪ 黒川⑭ 永田⑯ 木村⑭
水津⑨ 足立⑯ 徳岡⑪ 小野寺⑮ 小笠原⑩
柏倉④ 西村⑮ 小林⑯ 西出⑫ 石川⑫
久慈⑯ (案バ)⑭ 岩田 ⑮ 竹内
計 18 名 (安全パトロール含む)

台風 12 号も無事通過し晴天に恵まれると期待していたのだが、小田原集合時には小雨が降っていた。最終判断は現場の状況を見てから行うことになり、天気が好転することを願って小田原を出発した。現場に

向うにしたがって雨脚は強くなってきた。

駐車場に車を止め、班長も加わり降雨・足場の状態などの確認をし、作業ができる状況ではないとの最終判断で、間伐作業は中止し下山することとなった。帰り道はルートを変更して、真鶴半島を一周して小田原に向かった。帰りのバスの中では真鶴半島の自然について簡単に説明するなど、各班長は感染症予防を意識しながら、対応していた。

コロナ禍にあって新しい運営方法による第 2 回目の活動であったが、今回実践できた内容は受付業務だけで終わった。

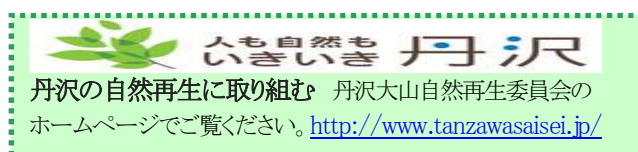


現地にて作業断念

県民参加の森林づくりの受付業務についてはインストラクターが中心になって、実施することになっているため、全員が分担して業務にあたるように担当者を配置した。各々の業務概要と実施方法を前もって連絡してあったため、比較的順調に運営することが出来たと思う。

16 期の 4 名のメンバーが、インストラクターとしてこの活動に参加していたが、間伐作業が出来なくなり非常に残念であったと思います。これからも積極的に活動に参加して、森林インストラクターとしての経験を積み成長して欲しいと思います。

(記 上田 啓二⑩ 写真 黒川 敏史⑭)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。

全国で 5 番目 / NPO 法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」再開

インストラクターの会活動休止のため、8 月いっぱい「森の案内人」も休止していましたが、9 月から再開しています。

現在の水源林の様子は、下記の「やどりき水源林ニュース」をご覧ください。

昨年の台風の被害復旧のため工事が行われており、立ち入りができない箇所があります。お越しになる際は、下記問合せ先か、かながわ森林インストラクターの会にお問い合わせください。

申込先

かながわ森林インストラクターの会
k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

「やどりき水源林ニュース」

<http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02>

9 月号から再開しています。

●問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP 担当: 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: cherril@gk9.sor-net.ne.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】阿藤 寿孝

Tel: 045-433-4413

Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp

原稿は随時受付けています。



鎌倉中央公園 ナラ枯れ



食痕 粉をふく

編集後記

★ 新型コロナの影響で、生活が一変。気がついてみると、運動不足ですっかり体が鈍って階段で息切れしてしまいました。山の活動に支障があつてはいけなと、夜のウォーキングとストレッチを始めました。(笠原)

★コロナ、コロナ。神奈川はまだまだ危険地帯。引き籠り生活を続けてます。活動再開もおっかなびっくりですね。体力もすっかり落ち、コロナ太りを気にしつつ・・・(吉田)

★「朝顔」は夏の風物詩といえますが、季語は【秋】なんですね！我が家の「朝顔」は7～8月に花をつけ、種も採れました。その種が？落ちたのか今また花を咲かせてます。【秋】です。(阿藤)

★学校関係の活動が9月末から猛烈に多くなっています。コロナ禍も心配ですし熱中症も怖いですが急に涼しくなりヤレヤレです。しかし、ヤマビルは待っていましたと、今年はい多いです。コロナ禍で基礎体力を鍛えました。学校活動で小学生の前で歳を言ってジャンプしたら褒めてもらいました。CMの芦田愛菜ちゃんの可愛すぎるショップ店員が「神接客」！でのデレデレの梅沢富美男の心境でした。(松本)

★あらら、いつの間にか、秋になってしまいました。猛暑が続き、残暑も厳しいと言われていたのに、台風の到来で激変。大慌てで森林用作業着も衣替えです。今年は季節のメリハリがないなあ。(竹内)

★9月から活動開始しました。「森のなかま」も10月号から再開です。10月号の掲載に間に合うように原稿を寄せていただいた方ありがとうございました。11月号もよろしくお願いします。(黒川)

ナラ枯れ情報

各地でナラ枯れの被害が出ていますが、今年の夏はは、鎌倉の里山でナラ枯れが進みました。原因はご承知の通り、カシノナガキクイムシ(カシナガ)の食害で、カシナガが持ち込んだ菌(ナラ菌)で導管が詰まり、木が急激に枯れます。食痕から木くずが出るので、すぐわかります。鎌倉の場合は、コナラの被害ですが、ミズナラ、シイなどにもアタックするようです。カシナガは、あけた穴に卵を産み、そこに持ち込んだ酵母菌(ナラ菌とは別種)を食べて幼虫が育ち、次の年の春には成虫になって次の木を探して飛び立ちます。したがって春までに伐倒して焼却するなどの対策をしないとナラ枯れが広がってしまうことになりませんが、これだけ広がるとなかなか対策できないといったところが実情ではないでしょうか。

カシナガが狙うのは、大きくなった老木が多く、コナラを薪炭用に使っていた頃は、約20年で皆伐していたので、ナラ枯れはほとんどなかったと考えられます。ナラ枯れも人の営みのせい？

(記 黒川敏史⑭)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ 加藤優美

阿藤寿孝 竹内明彦 柳澤千恵美

支援: 大原正志 江頭淑子 小林照夫 武田昭典 中澤良夫